

令和5年度 第1回

佐伯市食育推進会議

日時 令和6年3月18日(月)14:00~15:30

場所 佐伯市役所6階 第二委員会室



3 議事

(1) 令和5年度食育推進事業等の報告

ア 食のまちづくり推進事業

主な事業項目

① 食育推進計画

- ・ 令和5年4月1日付、第4次食育推進計画改定
- ・ 市HP,SNS等にて広報、関係会議等で説明。
- ・ 啓発用チラシ作成、イベント等にて配布、PR。
- ・ 視察等対応

(福岡県古賀市議会、熊本県菊池市議会、由布市保護司会、市民活動団体ほか)



由布市保護司会の皆さんと（講師：柴田委員）
「食から非行を防ぎたい」と感想を述べられた。
また、桜ホール及びキッチンコートを視察。
「弁当の日」映画についても、言及されていた。



② 食育ワークショップ

- ・ 主に（株）まちづくり佐伯に委託し、実施。一部、直営で実施している。
- ・ さいき城山桜ホールキッチンコートを活用し、年間を通してワークショップを開催。特に、『スペシャル食育ワークショップ☆あじのまる寿司を作ろう』を2月22日に実施した。以前から、河野会長に提案されていた「あじのまる寿司」については、そ

の後も、総合計画策定時の市民会議等で郷土料理伝承希望の意見もいただいていたので、今回、実現することができた。参加者からも、郷土料理 WS 開催に対して感謝の声も聞かれ、有意義な企画となった。増野委員ほか食育推進委員も参加していただいた。

5月には、桜ホールとの関連イベントとして、ゴールデンウィークファミリーフェスタにおいて、親子で参加できるワークショップとして、河野会長を講師に、対象を小学生以上とした「フランス料理にふれてみよう」を開催するなど、連携して事業を実施した。桜ホールの賑わいにもつながり、参加者からは、本格的で美味しく、しかも子どもも調理に参加できるということで大変喜ばれた。

7月には、酒井委員を講師に暑い夏を乗り切るごはん作り、てまり寿司を作る講座を実施し、野菜を使った彩り鮮やかで体に優しいメニューが好評だった。酒井委員には、あんこや米粉を使ったおやつ等のWSも担当していただいた。

9月には、直営事業として、佐伯のパンを直川桜の花酵母で焼こうと題して、大友委員と共に、ベーカリーイノベーション研究所田中康之氏、花酵母パンマイスターシェフ奥山丈氏を講師に、本格的な花酵母を使ったパン教室を実施した。発酵もうまくいき、会場は花酵母の香りに包まれた。良質な天然酵母のパンは体に優しく腸内環境にも良いとの講師の話もあり、パンの成形や焼き方はもちろんだが、食と健康、食べるものを選ぶことの大切さについても気づかされる講座であった。

12月には、直営事業として大分県立看護科学大学准教授杉本圭以子先生を講師に、食と心の健康のつながりをテーマとし、講義と調理を組み合わせたワークショップを開催した。手軽に鉄分を摂取する工夫やシシャモのみそ汁などのメニューが話題となった。参加者も、初めて食べたが美味しく、手軽にできると好評だった。食とこころの健康は、市が考える食育の考え方に通じると感じた。

2月には、食とオーガニックを絡めた企画として、副会長、染矢弘子講師による、『こんなところにもオーガニック! ?』と題し、初心者にもきっかけづくりとなるイベントを実施した。料理に、オーガニックワインも絡め、桜ホールキッチンコートの使い方の提案（夜開催、酒類等）とも相まって、新しい取り組みとなった。当日はゲストハウスに滞在する市外からの参加者もあり、佐伯市が取り組む食やオーガニック推進の事業に興味を持っていただいた。染矢副会長には6月にも玄米をテーマに講師を務めていただいた。

企画によって様々ではあるが、老若男女問わず、たくさんの方々がイベントに参加してくれている。今後も、ニーズのあるテーマや、意外性のある企画など、事業者や講師等と連携を取りながら幅広い内容で、食育推進や食を絡めたオーガニック推進を行っている。



③ 巣立つ君たちへの自炊塾

・食育サポートおおいた委託事業として実施。今年度は、夏休み開催を実施、3月に2回、計3回の開催を企画。高校を卒業後、佐伯を離れる高校生に向け、料理の基本や郷土の食、家族とのきずな等をテーマとし、基礎的な調理を学び自炊する力を学んだ。参加者からは、今後自炊し自立していく意気込みが感じられた。



④ 食育サポーター制度

・食育ワークショップ等、食や食育に関連した事業に講師やサポート役として支援してくれる食育サポーター制度の拡充を目指し、7月10日柴田真佑委員を講師に食育サポーター養成講座を開催した。さいき食育サポーター制度について、先輩サポーターの活動インタビュー（柴田委員×梶川里沙委員、千田愛さん）も実施し、参加者から、自分も何かできないか刺激を受けた。制度を知れて良かった。などの声が聞かれた。3月現在、サポーター登録者19名。



⑤ 食や食育に関連する啓発事業

・フードロス削減のため、庁内に呼び掛けフードドライブを実施。社会福祉協議会と連携し、市報等にて啓発。

・関連し、渡町台小学校生徒が食品ロス削減のパンフレットを作成し、令和5年3月17日に市へ持参してくれた件で、その後、豊南高校の有志がパンフレットを基に紙芝居を作成、城南中学校での啓発連携を図るなどの展開があった。派生した内容も含め、渡町台小学校が消費者庁令和5年度食品ロス削減推進表彰査委員会委員長賞を受賞した。(別紙1)

・市報、HP、文字放送のほか、SNS インスタグラムを活用し、幅広く食に関連した広報・啓発を継続。(3月上旬時点、459投稿、フォロワー929人)

・民間企業(株)LEOCと連携した米水津小学校での食育授業を支援した。事業者、生産者を巡り現地で有機野菜収穫体験等を実施、食の大切さや地元にある食材について学んだ。それを基にメニュー開発を展開し、試作を行いながら工夫を重ね調理も上達した。11月の発表会では完成メニューを披露した。3月には実際の給食メニューに登場した。



⑥ 食のまちづくり活動補助事業(別紙2)

・4月に補助希望団体を募集し、4月下旬審査会を開催。5月頃から各補助団体が事業実施。広報等について、団体と連携し実施した。今年度12団体が採択され、啓発イベント等市民活動団体ならではの事業が展開された。一例として、しろやま共同保育園が取り組む食育事業がNPO法人 幼年教育・子育て支援推進機構(後援:文部科学省、こども家庭庁)の第18回食育コンテストにおいて奨励賞を受賞した。(資料添付)

また、WC☆ホップステップジャンプは発酵について調査研究したものを60頁に及ぶ冊子にまとめ、発表し話題となった。

振興局管内の団体は、公民館、コミュニティセンターを活動の場として活用し、地域に根差した活動が広がり、施設の活用にも繋がった。市町村合併やコロナ等もあり少なくなっていた食の活動が振興局管内でも復活し、また振興局区域外からの講師を呼ぶなど、地域としての新しい試みとも相まって好評だった。

課題もあり、残念ながら採択した内、2団体が、団体都合により年度途中で実施を断念し、事業中止となった。(理由:団体員の市外転出、体調不良等)

イ 食からつなぐオーガニック推進事業

主な事業項目

① さいきオーガニックフェスタ 2023 (別紙3)

② なちゆるるさいきっちゃん (食育情報番組) 制作放映事業

・『郷土料理』をテーマに年間7番組を制作

・佐伯市食生活改善推進協議会、清家会長(清家委員)、健康増進課、市内小中学校、市民活動団体、市内講師等の協力を得て連携することができた。第1回は食生活改善推進協議会の紹介や取り組みを特集した。また、団体の支援事業である地域や小中学校への郷土料理伝承活動取材することができた。そのほか、河野会長を講師に市民活動団体「ボンジュール彦岳」、「男の料理教室」(会長:増野委員)との合同事業の様子、台湾高校生交流事業も含め構成した。また、「ごまだし」、「あじの丸寿司」といった、市民等からリクエストがあった内容も含めて構成することができた。

・番組は、ケーブルテレビ佐伯で放映後、YouTubeにアップし、啓発に繋げた。

<https://www.youtube.com/user/saikibrand> (検索:なちゆるるさいきっちゃん)

放送	出演者	主な内容(紹介した料理・商品ほか)
5月	佐伯市食生活改善推進協議会	協議会の紹介や取り組み、レシピ集等
7月	米水津中学校 食推米水津支部	ひじき収穫・加工・調理実習・生徒感想
8月	(株)漁村女性グループめばる 桑原政子さん	これまでの取り組み、ごまだしの歴史、レシピ、作り方
9月	「ボンジュール彦岳」ほか	男の料理教室コラボ、台湾高校生交流事業
11月	食生活改善推進協議会 上浦支部ほか	食推上浦・直川・宇目支部交流、かみなり作り
2月	宇目緑豊小中学校、食推宇目支部	やせうま、だんご汁づくり、生徒感想ほか
3月	民宿 戸高、WS参加者	あじのまる寿司、調理方法、WSの様子ほか

・視聴者からの感想として、「郷土料理を伝承することに取り組んでいるのが大事なこと。」、「家庭でも孫と作って伝承したい。」、「小中学校での取り組みを見て、伝承そのものと感じた。こういう活動を続けて欲しい。」などの感想が寄せられた。

③ オーガニック推進ワークショップ開催

・主に食を切り口としたオーガニックシティ推進を目的に市民が気軽に参加できる、オーガニック入門講座として、幅広い内容でワークショップを開催した。

実施	講師	主な内容
7月	戸高雅史氏 (そらのほとり)	非日常を感じるキャンプ・アウトドア体験、屋外で何もせず、ぼーっと過ごすことの大切さを知る、屋外調理体験、火起こし体験等。戸高氏が直接指導し、体を動かす、歌を歌うなど楽しい会になった。
8月	吉田俊道氏 (菌ちゃん野菜づくり)	長崎佐世保菌ちゃんふぁーむツアー、バスで日帰り強行軍、日田市チーム（元佐伯市協力隊員鹿野氏率いる団体）と現地合流し、菌ちゃん野菜の圃場や加工場を見学、座学で吉田先生から講義を受けた。



9月	山忠工場見学	地元食材と地元食品工場を知る、ひじきふりかけづくり体験。こどもの社会見学コースになっているが、参加者の声として「意外と知らない人が多い」との意見もあり、改めて発見のある会となった。
10月	工藤克史氏 (テントテントツアーズ)	城山どんぐりコーヒーをつくろう！実際に城山ふもとでどんぐり拾い、どんぐりの種類を勉強した。その後、桜ホールでどんぐりを焙煎したコーヒーを入れ試飲。ほとんどの方が初めての体験だった。
10月	(株)サンテツ	家族で土づくりミッション！おでん大根を育てよう土に触れる体験、有機堆肥と土嚢袋を活用し、季節

		に合う食材を種から育てる体験。親子参加で初心者でもできる有機栽培を学んだ。
12月	大野タカシ氏 (タレント)	あなたの知らないオリーブオイルのヒミツと題し、オリーブオイルから始めるオーガニックの入門講座を実施、参加者の裾野を広げることを目的に、ご当地タレントを講師に起用し好評であった。
1月	河野辰也会長	【スペシャルWS】アスリート料理を学ぶ会 スポーツが盛んな市という地域性をいかし、アスリートと食育やオーガニック食材等も絡めた、より食を追求する講座を実施。スポーツ栄養学に調理実演や試食を含め、競技に直結する食の大切さを学んだ。口に入れるものに関連しドーピングについても言及し、多岐にわたる内容となった。応募者も多く、当日は参加者から質問も飛び交い、大変好評で充実した会となった。



④ オーガニック推進啓発事業

- ・映画「弁当の日」の上映について情報提供し、学校等と連携して上映会を開催した。
- ・映画「百姓の百の声」上映会は、市民活動団体や農文協とも連携し、実施できた。
- ・オーガニック野菜の販促として、市役所庁舎内での試験販売を支援。
- ・イベントや啓発実施については、常に農政課やさいきオーガニックアドバイザー山口タカさん等から支援いただき、連携して実施した。
- ・3/22～3/24、東京都港区愛宕神社でのオーガニックマルシェにPRブース出展予定（農水省オーガニックビレッジ宣言登録市町村等を含め出展予定）

⑤ さいきオーガニックマルシェ

（株）まちづくり佐伯が主体となり、市も連携して実施した。11月のオーガニックフェスタほか、2月3日には、ユネスコエコパークシンポジウムと連携して実施。オーガニック推進と親和性のあるイベントとの同時開催で相互の集客や啓発の推進を行った。

※オーガニック推進について、参考値ではあるが、食育意識調査で市が「オーガニックシティの実現を目指していること」を知っている、知っているが内容まではわからないを合わせると、R4年度68%から→R5年度89%まで上昇した。

（2）令和6年度食育推進事業等の予定

ア 食のまちづくり推進事業

① 食育推進会議

食育事業、食育推進計画の推進について協議・相談・報告等を行う。

② 食育ワークショップ

主に、さいき城山桜ホールキッチンコートを会場とし、初心者を対象としたイベント、郷土料理、親子開催等、多様な講座の開催を目指す。できるだけ新しい知見や工夫のある講座、ニーズのある講座を企画し、幅広い方々に参加してもらえるイベントを目指す。

③ 巣立つ君たちへの自炊塾

佐伯市の食育事業として特徴的な取組であり、令和6年度も継続開催したい。

④ 食を探究するイベントや講座

食に携わる方々にも学んでもらえるよう、食を探究する事業を実施し、「食のまち佐

伯」を盛り上げる企画を目指す。

⑤ 食育サポーター

制度の拡充を目指し、制度の周知、ワークショップ等での活用、講師派遣を推進する。

⑥ 食や食育に関連する啓発事業

食を切り口とした様々な情報を幅広く捉え、SNS 等も活用し啓発を実施する。

⑦ 食のまちづくり活動補助事業

年度当初に募集、採択し、事業実施期間が確保できるスケジュールとする。申請は、4月15日（月）〆切とする。5月には事業決定を行いたい。

イ 食からつなぐオーガニック推進事業

主な事業項目

① さいきオーガニックフェスタ 2024

現時点で、令和6年11月9日（土）、さいき城山桜ホールでの実施を検討中。
市報5月号にて、事業実施の希望・アイデア等を募集予定。

② なちゆるるさいきっちゃん（食育情報番組）制作放映事業

『共食』を主なテーマに、年間7番組（予定）を制作、子ども食堂等の共食の場や機会を捉え、その必要性や共食の推進、啓発等を主体に構成する。こども福祉課、子ども食堂運営団体等と連携を図りたい。

③ オーガニック推進ワークショップ開催

食を切り口とし、オーガニック推進に繋がるワークショップを開催する。オーガニックを難しく捉えず、日常の生活に取り入れやすい、幅広い内容の講座を実施する。

④ オーガニック推進啓発事業

食を切り口とした、オーガニック推進に関する啓発を行う。映画「弁当の日」等の啓発映画上映ほか、食育やオーガニックに関連するイベントに関する支援を継続実施する。

⑤ さいきオーガニックマルシェ

実際に、「オーガニックにふれる」「生産者と消費者をつなぐ」「オーガニック商品を使う」等を目的とし、継続実施する。